巨大ナル舌乳嘴腫ノ一例 (挿圖(11))

Ein Fall von grossem Zungenpapillom von Dr. I. Sekikawa (aus der Universitätsklinik für Ohren-, Nasen und Hals-Kranke zu Fukuoka; Vorstand: Prof.

Dr. Kubo)

九、大、醫、大、耳鼻咽喉科教室 醫學士 關 川 一 郎

此大要ハ大正元年十月十五日第十一回大日本耳鼻咽喉科學會九州地方會ノ席上ニテ述タルモノナリ
舌ノ乳嘴腫ニ就テハ千八百八十四年ニカツペート(一)ハ十四歳ノ處女ノ舌ノ殆ンド全表面ニ存スル一例
ヲ報告シ且其療法トシテ腐蝕法ヲ施シ内服トシテハ砒素製劑ヲ用キ報告當時ハ電氣分解ヲ試ミツ、アル
コヲ報告セリ千八百九十一年ミツヘルソン(二)ハ舌ノ乳嘴腫ノ二例ヲ見タルコヲ報告シローゼルベルグ
(二)ザイフエルト(二)デムメー(二)ハ各一例ノ舌乳嘴腫ヲ報告シタリ而シテデムメーノ例ハ舌ノ先端ニ存ス
ルモノニシテ他ハ舌根部ニ存スルモノナリキ又千八百九十四年ヘルツフェルド(三)ハ舌根部ニ生ジタル
鶏卵大ノ乳嘴腫ヲ伯林醫學會ニ報告シ同年カーン(二)ハ口腔内ノ乳嘴腫ヲ有スル患者七十一人合計八十
一例ノ乳嘴腫ニ就テ報告シタリ其七十一人中男女ノ性ニヨリテ分ツキハ男子ハ五十八人女子ハ十三人
又之レヲ發生部位ニヨリテ分ツキハ其三十三例ハ懸壅垂ニアリテ其前面上部ニ存スルモノ八例後面ニ

○原著—巨大ナル舌乳嘴腫ノ一例（關川）

二六

存スルモノ五例邊縁ニ存スルモノ十三例先端ニ存スルモノハ七例ナリ口蓋帆ニ生シタルモノハ卅一例ニシテ其内二例ハ前後口蓋帆ノ移行部ニ存シ軟口蓋ニハ六例ヲ見タリ然シテ以上ヲ除ク十一例ガ舌ニ存シタルモノナレモ余ガ報告セントスル如キ舌ノ表面ニ存シタルモノハ實ニ只一例ヲ得タルノミニシテ他ノ十例ハ舌根部ニ存シタルモノナリキ其舌ニ生シタルモノハ輪廓様乳頭ヲ去ルコ前方半仙米ニシテ廣キ基底ヲ有シ又半仙米ノ高サヲ有スルモノナリシト云フ。岡田博士ハ廿二歳ノ男子ノ舌背全面ニ「パピローム」狀腫脹ヲ見タリト云フ。

合併症カーンノ七十一人中鼻咽喉部ニ合併症ヲ有シタルモノハ四十九人ニシテ廿六人ガ顆粒性咽頭炎八人ガ瘡痂性咽頭炎四人ガ腺様増殖症六人ガ肥厚性鼻炎二人ガ口蓋扁桃腺肥大病人ガ舌扁桃腺肥大症二人ガ喉頭加答兒及鼻乳嘴腫、脊瘦性鼻炎篩骨カリエス、鼻中隔骨ノ増殖症ノ各一人宛然シテ舌ニ生ジタリシ者ニハ鼻咽喉部ニハ何等ノ合併症ヲモ有セザリキ

副症狀 以上ノ八十一例ノ内腫瘍ノ爲メニ不快ナル壓迫感ハ常ニ嚥下ヲ強イラル、感異物感又ハ痒感甚シキニ至リテハ呼吸困難ヲ感ジタル如キ副症狀モ存シタリザイフエルト（四ノ報告シタル一例ハ舌根部ノ乳嘴腫ニソ實ニ神經性呼吸困難ヲ起シタリト云フ要スルニ以上ノ如キ不快ナル副症狀ハ腫瘍ノ發生部位ト大サ形狀ノ如何ニ關係アルモノ、如シ即チカーンノ例ニ於テモ口蓋扁桃腺又ハ舌扁桃腺ノ合併症ヲ有シタルモノカ又ハ懸雍垂ノ先端ニ生シタル有柄ノモノ等ガ不快ナル副症狀ヲ呈シタルコトヲ

余ノ患者ハ其發生部位ハ輪廓様乳頭ヲ中心トシテ其前後ニ廣ガリタル實ニカーン八十一例中ニモ其比ヲ見ザル大ナル腫瘍ナレモ自覺的ニハ此腫瘍ノ爲メニ不快ナル副症狀ヲ呈セザルハ腫瘍ノ大ナルニ關セズ其發生部位ノ舌ノ表面ニ存スルト口蓋、及舌扁桃腺ノ肥大ヲ伴ハザルト其舌根部ニ存スルモノガ小サクシテ廣キ基底ヲ有シ喉頭部ニ懸垂セザルニ因ルナラン然レモ他覺的ニハ發音時ニ當リテ少シク異調ヲ呈スルモ患者ハ生後十ヶ月ノ頃ヨリ漸次増大スル腫瘍ヲ有シタルヲ以テ爾後十有五年間ニ之レヲ調和シテ以テ患者自身ニハ何等ノ不便ヲ感ゼザルモノナラン

乳嘴腫性質 良性ナルモノニシテ長莖ヲ有スルヲアリ又ハ廣キ其底ヲ有スルヲアリ表面ハ桑實様ヲ呈シ周圍トノ境界ハ浸潤ナク明劃ナリ其來ルヤ男女年齡ノ如何ニハ關セザルモ他ノ總テノ疾患ノ如ク男子ニ來ルコト多シ又先天性ニ來ルコトアリトルツチン(五)ハ彼レノ著書ニ述ベ居レリ

好發部位トシテハザイフエルト及カーン(六)ニヨレバ懸雍垂ノ粘膜ハ最モ多クシテ次ニ軟口蓋ナリ舌ノ表面ニ來ルコトハ最モ少ナクシテ後咽頭ニハ尙稀ニ存スルモノナリ其舌ニ來ルモノニ就テハローゼンタール(三)ニヨレバ舌根部ニ尤モ多クシテ次ニ舌背次ニ邊緣次ニ先端ニシテ舌下面ニハ稀レニ來ルモノナリト云フ

類症鑑別 舌ニハ種々ナル腫瘍來レモ臨床上比較的の多ク遭遇スル癌及炎症症狀ヲ有スル微毒及結核ヲ

簡單ニ類別スレバ癌ハ一般ニ高年ノ者ニ來リ初期ノ結節又ハ小潰瘍ヲ有スル者ハ周圍ノ組織ヨリ境界ハ明カニ分割セラル、モ結節ハ速カニ發育シ浸潤來リテ境界ハ周圍ノ組織ヨリ不明トナリ結節ニハ潰瘍ヲ生ジ刺スガ如キ疼痛アリテ殊ニ病側ノ耳ニ放射スル如キ激痛ヲ來スベシ然シテ潰瘍ノ邊緣ハ膨隆シ又數々潰瘍面ヨリハ自然ニ出血ヲ來スコアリ此ノ如キ狀態ニ至レバ患者ハ最早食物ヲ取ルコトヲ得ザルベシ

結核性ノ結節ハ漸々増大スルニ從ヒテ潰瘍ヲ作り潰瘍面ハ粘膜下ヲ潜蝕スル性ヲ有シ潰瘍底ハ甚シク赤キキアルモ普通淡紅白色ヲ呈スル肉芽ヲ以テ覆ハレ其頸腺ニハ多クノ場合ニ潰瘍面ノ來ラザルキニ腫脹ヲ來スモノナリ其他一般症狀ヲ注意スレバ診斷ハ誤ラザルベシ

久保教授ハ嘗テ四十六歳ノ一女子ニアリテ舌背「バピローム」ヨリ來ル隨時ノ小出血ガ内科ニ於テ咯血ニ疑フ措カレシコトヲ實驗シタリ

護謨腫ガ舌ニ來ルキハ其潰瘍面ハ特有ナル嶮崖狀ヲ呈シ軟口蓋其他ニ必ズ病的症候來タスヲ以テ診斷ハ容易ナリルッチン(五)ニヨレバ「コンヂローム」ガ舌ニ來ルキハ此「コンヂローム」ノミヲ見ルキハ頗ル

乳嘴腫ニ類スルモ既往症及他部ノ徵毒ノ有無ヲ注意スレバ容易ニ鑑別スルコトヲ得ト云ヘリ

處置 乳嘴腫ノ處置トシテハ文献ニハ腐蝕燒灼切除其他内服藥等種々アレモ余ハ久保教授ノ指導ノモトニ寒係蹄ヲ用キ唯止ムヲ得ザルキニ於テノミ缺ヲ用キタリ

予ノ實騷セル患者ノ病床日誌ハ左ノ如シ

患者十五歳ノ女生徒

主訴舌ノ腫瘍

血族關係祖母兩親ニ記スベキヲナシ五人ノ兄弟アリ皆健全舌ニ腫瘍ヲ有スルモノナシ又血族ニ癌結核等ノ素因ナシ

患者生來健全記スベキ疾病ニ罹リタルヲナシ酒煙草ヲ喫セズ月經未ダ來潮セズ花柳病ニ罹リシヲナシ
ビルケー氏反應陰性

既往症生後約十ヶ月ニシテ兩親ハ生兒ノ舌ニ小ナル結節點ノ二三ヲ認メタリ爾來其結節ハ漸次何等ノ炎症症狀ヲ呈セズシテ増大シ今日ニ至レリト患者ハ其腫瘍ノ爲メニ何等ノ痛苦モ亦何等ノ障害ヲモ訴ヘズ

他覺の症狀營養佳良身長大、顏貌普通、顔面皮膚及粘膜貧血セズ筋肉及皮下脂肪組織發育良内臟ニ記スベキ變化ナシ顎下腺顎部淋巴腺ニ殊ニ認ムベキ肥大ナシ唯下顎部ノ先端ニ靜脈ノ擴張シテ透視スル五厘銅錢大ノ部アリ尿ニハ蛋白糖ナシ

局所症狀右下甲介ハ少シク肥大スル外ニ鼻咽喉部ニ著變ナシ舌ニハ都合四個ノ大ナル腫瘍アリ舌壓子ヲ以テ舌ヲ壓スレバ左輪廓樣乳頭ヲ中心トシテ前後ニ三リ一ハ直徑二・五仙米高サ半仙米表面粗糙ニ

○原著—巨大ナル舌乳嚢腫ノ一例（關川）

○原著—巨大ナル舌乳嘴腫ノ一例（關川）

三〇

シテ色澤形狀宛カモ桑實狀ヲ呈シ基底ハ廣クシテ周圍ニハ浸潤ナク境界ハ明劃壓痛ナク波動及假波動ヲ呈セザル稍堅キ腫瘍アリ又之レト並ビテ右方ニ外見形狀全ク相似タル徑約一仙米長サ前後二・半仙米高サ半仙米ノ腫瘍アリ尙喉頭鏡ヲ以テ檢スルキハ左側ノ大ナル腫瘍ト續キテ舌根部ノ方ニ小指頭大ノ同様ナル二個ノ腫瘍ガ連續シテ存在スルヲ見タリ而シテ此等ノ腫瘍ノ表面ニハ其何レニモ潰瘍面モ亦特別ナル被苔モ存セズ其大ナル腫瘍ノ前面ニ左側ニ尙豌豆大ノモノ及其周圍ニ小豆大及米粒大ノモノ四五ヲ見タリ其表面ハ同ジク粗糙ナルモ其方ハ粗糙ノ程度ハ余程微細ナリキ

臨床的診斷舌ノ乳嘴腫及右側慢性肥厚性鼻炎

處置余ハ久保教授指導ノモトニ患者ノ無熱ノ時ヲ見テ寒係蹄ヲ以テ〇・五%「コカインアドリナリン」溶液ヲ局部麻醉ノ後ニ先ツ右方ノ小腫瘍ヲ切除シタリ出血ハ少量ニシテ約一時間ノ後ニ止血シタリ術後約三日間ハ創面腫脹ヲ來シテ宛カモ舊態ニ復シタルノ觀アリシモ漸時癰痕ヲ殘シテ平坦トナリ且創面ハ柔軟トナレリ爾來徐々ニ少許宛切除シテ全ク之レヲ取り去レリ大ナル方ノ腫瘍ハ時ニ寒係蹄ニテハ抵抗強クシテ切除スルヲ能ハザルキアリシヲ以テ其時ハ寒係蹄ニテ縊リタルマ、缺ヲ以テ切除スルヲ常トセリ時々出血甚シキ時アリシモ多クハ二三時間ニテ全ク止血シタリ術後ノ創面ハ過酸化水素ヲ塗布シ含嗽劑トシテハ一%ミルヲ丁幾ヲ與ヘタリ手術ハ患者ノ苦痛ヲサケシ爲メニ前後五回ニ之レヲ行ヒタリ

テ之ヲ檢ス基質ハ舌ノ粘膜下結締質ヨリ直チニ出デタルモノニシテ無數ノ大小不同ノ中ニ小動脈ヲ有スル乳嘴ヲ形成シ此部ノ重層扁平細胞ハ甚シク増生シテ此等ノ乳嘴ノ被蓋ヲナシ其最工層ハ角化ヲ來スヲ見ル(附圖第三)

久保教授(七)ハ嘗テ口腔「バビローム」ノ組織ヲ研究シ其變化上皮層ニ著シキコトヲ述ベタリ予ノ所見モ一致ス

稿ヲ終ルニ臨ミ終始指導ノ勞ト且校訂ノ勞ヲトラレタル恩師久保教授ニ謝意ヲ表ス

圖解

第一圖、甲、舌背「バビローム」ヲ表面ヨリ見タル圖

乙、同上側面ヨリ見タル圖

第二圖、甲、乙、第一圖腫瘍手術後退院時ノ圖

第三圖、組織ノ一片ヲ鏡檢シタル圖(「ライツ」接眼一、接物三、)

Literatur.

1. La Presse Med, Belage No. 41 1884.
2. Arc. für Laryn. u. Rhinologie 1 1894.

○原著—巨大ナル舌乳嘴腫ノ一例(關川)

○原著—巨大ナル舌乳嚢腫ノ一例（關川）

三二

3. Rosenthal : Die Zunge und ihre Begleiterscheinungen bei Krankheiten
4. Mikulicz : Krankheiten des Mundes.
5. Rutin : Krankheiten der Zunge.
6. Seifert-Kuhn : Atlas der Histologie der Nase, der Mundrachenhöhle und des Kehlkopfes.
7. 久保猪之吉 : 口咽腔「バビローム」ノ組織及發生論

大日本耳鼻咽喉科會々報 第九卷四號 明治三十六年

關川論文附圖
第一圖

甲

乙

關川論文附圖
第二圖

甲

乙